

広島市医師会運営・安芸市民病院の建替えについて

令和元年 10月 2日

広島市健康福祉局医療政策課

安芸市民病院の建替えの概要

- ・広島市医師会運営・安芸市民病院は、一部施設を除き、建築後約40年が経過して建物の老朽化が進んでいることから、病棟等の建替えを計画している。建替えを予定している各施設はスプリンクラーが設置されていないため、改正消防法の経過措置期限（2025年6月末日）に間に合うように新病棟を整備する必要がある。
- ・建替えに当たり、広島医療圏及び安芸市民病院の診療圏である安芸地区（安芸区及び安芸郡4町（府中町、海田町、熊野町及び坂町））の状況を踏まえ、病床編成を次のとおりとしたいと考えている。

現在の病床編成	
一般病床	80床
（うち急性期病床	40床）
（うち地域包括ケア病床	20床）
（うち緩和ケア病床	20床）
療養病床	60床
合計	140床



建替え後の病床編成案	
一般病床	100床
（うち急性期病床	40床）
（うち地域包括ケア病床	40床）
（うち緩和ケア病床	20床）
療養病床	40床
合計	140床

1 安芸市民病院の現状

(1) 病院の沿革

広島市医師会運営・安芸市民病院は、昭和8年に広島市立畑賀病院として発足した。昭和22年に厚労省に移管され国立療養所となった後、平成13年に再び広島市に移管され、広島市医師会に運営を委託して開設した。

(2) 診療科目

内科、呼吸器科、循環器科、小児科、外科、リハビリテーション科 計6科

(3) 病床数 140床

一般病床 80床 (うち、地域包括ケア病床20床、緩和ケア病床20床)

療養病床 60床

(4) 外来患者数

	外来患者数	うち救急患者数	うち人工透析患者数
年延(人)	41,229	2,765	5,096
一日(人)	171.8	11.5	16.3

※ 救急患者数は、通常の開院時間外に受診した患者の数。

※ 救急患者は人工透析患者を含む。

(5) 入院患者数

	一般病床 (80床)	うち地域包括ケア病床 (20床)	うち緩和ケア病床 (20床)	療養病床 (60床)	うち人工透析患者	合計
年延(人)	25,725	6,330	5,944	21,313	3,958	47,038
一日(人)	70.5	17.3	16.3	58.4	10.8	128.9
病床利用率(%)	88.1	86.7	81.4	97.3	—	92.1

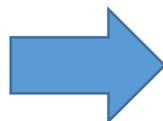
(数値は平成30年度)

2 安芸地区（安芸区及び安芸郡4町）の病床数

	病床数			人口10万人当たり病床数					
	安芸地区計	安芸区	安芸郡	安芸地区計			広島医療圏	広島県	
				安芸区	安芸郡				
病床数	1,626	609	1,017	831.4	767.5	875.0	1,181.0	1,364.0	
病床分類	一般病床	760	138	622	388.6	173.9	535.2	648.0	731.1
	療養病床	237	159	78	121.2	200.4	67.1	286.3	327.8
	精神病床	629	312	317	321.6	393.2	272.8	246.7	305.2
(参考) 病院数	10	5	5	5.1	6.3	4.3	7.1	8.4	

(出典：日本医師会 地域医療情報システムより 2018年11月現在 人口は2015年国勢調査による)

安芸地区の人口当たり病床数は、一般病床は広島医療圏の約60%、療養病床は広島医療圏の約42%しかない。



現状でも少ない病床をこれ以上減らすことはできない。

3 安芸市民病院患者数の地域別分布及び将来推計

安芸市民病院の地域別患者数（平成30年度）

	入院		外来	
	患者数	構成比	患者数	構成比
安芸区	27,501人	58.5%	31,347人	76.0%
府中町	4,250人	9.0%	472人	1.1%
海田町	7,185人	15.3%	3,620人	8.8%
熊野町	1,997人	4.2%	176人	0.4%
坂町	895人	1.9%	113人	0.3%
安芸地区計	41,828人	88.9%	35,728人	86.7%
広島市(安芸区以外)	2,741人	5.8%	1,612人	3.9%
その他	2,469人	5.2%	3,889人	9.4%
合計	47,038人	100.0%	41,229人	100.0%

入院患者の88.9%、外来患者の86.7%が安芸地区の患者である。

安芸市民病院の推計患者数（1日当たり）

	2018年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
外来患者数	171.8人	183.1人	177.1人	172.0人	166.1人	161.0人
入院患者数	128.9人	132.4人	137.8人	134.7人	127.8人	122.9人
必要病床数	140床	144床	150床	146床	139床	133床

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」等の資料から推計

※必要病床数は病床利用率を平成30年度実績(92.1%)としたのもの

外来患者数は、2020年頃をピークに減少する見込み。入院患者数は、2025年頃まで増加し、その後減少する見込みだが、必要病床数は2035年頃まで概ね140床を上回る見込み。

4 安芸市民病院が担う役割について

- (1) 救急医療の提供
- (2) 安芸地区の地域包括ケアシステムへの貢献
- (3) 慢性透析医療の確保
- (4) 緩和ケア医療の確保

4 安芸市民病院が担う役割について

(1) 救急医療の提供

安芸地区の主な病院の救急医療の状況（平成29年度）

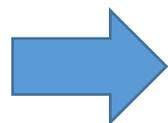
病院	休日に受診した患者延数（人）	夜間・時間外に受診した患者延数（人）	救急車の受入件数（件）
安芸市民病院	1,891	1,495	299
済生会広島病院	1,524	1,006	933
マツダ病院	1,797	1,678	2,537
松石病院	299	446	572

安芸地区と広島医療圏全体の救急医療の状況（平成29年度）

病院	休日に受診した患者延数（人）	夜間・時間外に受診した患者延数（人）	救急車の受入件数（件）
安芸地区計	5,606	4,606	4,353
人口10万人当たり人数	2,801	2,302	2,175
広島医療圏計	62,500	92,356	49,318
人口10万人当たり人数	4,562	6,741	3,600

（出典：広島県 平成29年度病床機能報告）

- ・ 安芸市民病院の休日の受入件数は、安芸地区の主な病院の中で1番目、夜間・時間外の受入件数は2番目となっている。
- ・ 病院群輪番制病院は安芸地区ではマツダ病院と安芸市民病院の2院のみである。
- ・ 人口10万人当たりの受入れ人数は、安芸地区は広島医療圏全体に比較して、3割から6割程度と少ない。



安芸地区での救急の受入れが十分出来ていない中、広島市民病院や県立広島病院等の基幹病院の負担がこれ以上重くなり、支障をきたすことがないように、**急性期の一般病床40床は維持する**必要がある。

4 安芸市民病院が担う役割について

(2) 安芸地区の地域包括ケアシステムへの貢献

広島医療圏南部地域の高齢化率の推移

	2015年	2020年	2025年
広島医療圏南部地域	23.2%	24.9%	25.7%
うち安芸地区	25.3%	27.0%	27.6%
広島市安芸区	24.6%	26.5%	27.3%
府中町	23.1%	24.8%	25.5%
海田町	22.9%	24.5%	25.0%
熊野町	33.2%	35.7%	35.9%
坂町	29.2%	29.7%	28.8%

※高齢化率は総人口に占める65歳以上人口の割合

※2015年は国勢調査による

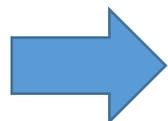
※将来推計人口は国立社会保障・人口問題研究所による（2018年3月推計）

安芸地区は南部地域全体より高齢化が進んでいる

入院紹介患者数上位5医療機関（平成28年度）

医療機関	紹介患者数
マツダ病院	57
県立広島病院	57
広島大学病院	54
広島市民病院	36
広島赤十字・原爆病院	21

高度急性期、急性期を担う病院からの紹介が多く、現在もポストアキュート機能を担っている。



高齢化が進む中、地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題である。**地域包括ケア病床を20床増床**することで、かかりつけ医が行う在宅医療を支援する機能（サブアキュート機能）や、高度急性期を終えた患者が在宅医療に向けて円滑に移行するための医療を提供する機能（ポストアキュート機能）を強化する必要がある。

4 安芸市民病院が担う役割について

(3) 慢性透析医療の確保

安芸地区において、入院透析が必要な患者を受け入れている医療機関は少なく、地域の医療需要に欠かせない役割を果たしている。

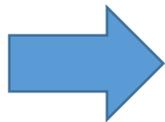
入院人工透析の将来推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
安芸地区	8,953件	9,519件	9,777件	9,767件	9,601件	9,432件

安芸地区の入院人工透析需要は将来的には減少傾向となるが、当面の間は増加が続く。

※国民健康保険レセプトデータ及び将来推計人口により算出

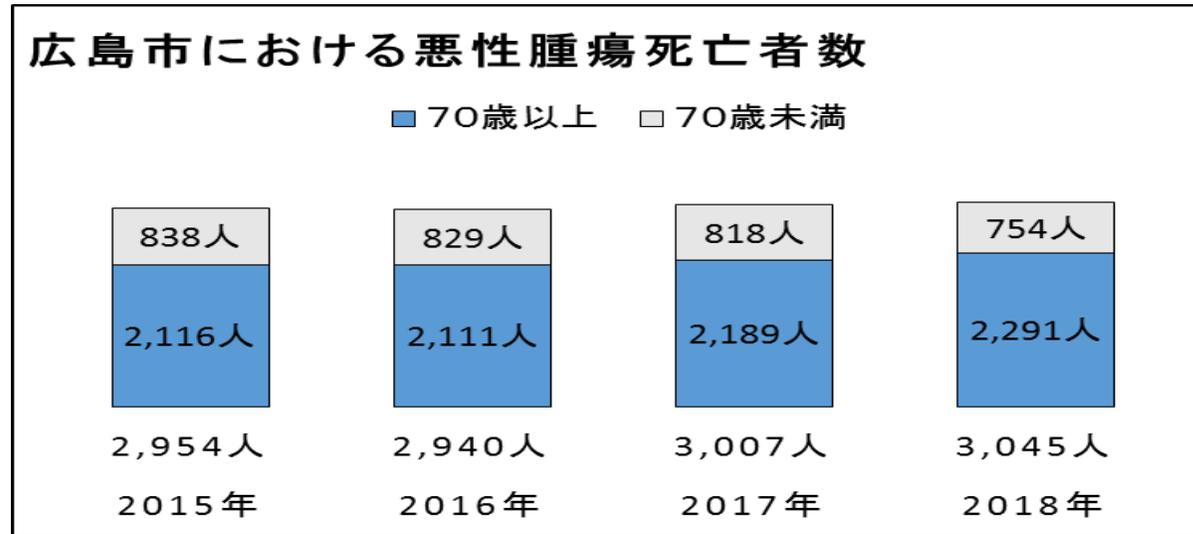
また、安芸地区の人口当たり療養病床数は、広島医療圏の約42%しかない。
(P3参照)



地域医療構想で過剰が見込まれる慢性期の病床である療養病床は、20床減らして40床とするが、引き続き、透析に加え合併症を引き起こしているなど入院透析が必要な患者や、在宅復帰が困難な患者を受け入れる機能を担う必要がある。

4 安芸市民病院が担う役割について

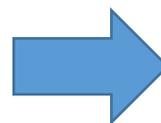
(4) 緩和ケア医療の確保



(出典：人口動態統計に基づく集計)

広島市の悪性腫瘍死亡者数は増加しており、70歳以上の占める割合も年々増加している。今後の高齢化の進展を考えると、この傾向は続くと思われ、緩和ケア病床の医療需要は増加が見込まれる。

安芸地区には他に緩和ケア病床がなく安芸市民病院の緩和ケア病床は80%以上の稼働率となっている。



緩和ケア病床は引き続き20床を維持する必要がある。